

第93回メーデー万歳

第93回徳島中央メーデー実行委員会

実行委員長 大谷 竹人

第93回メーデー阿南那賀海部地区集会にご参加いただきました関係各位に心から敬意を表しますとともに感謝を申し上げます。

さて、2月24日に始まったロシアによるウクライナ軍事侵攻の状況は様々なメディアで報道されて皆さんもご覧になっていると思います。すべての戦争は最大の人権侵害であり、どの戦争にも大義は無く、ロシアの無条件でのウクライナからの即時撤退が必要なものは当然です。

ただ、今回のロシアによるウクライナ軍事侵攻の報道の中で、メディアやジャーナリストが人種に絡めた問題表現を使っているとの批判が相次いでいます。アメリカCBSニュースの、あるベテラン海外特派員はウクライナについて、「長年にわたり紛争が続いてきたイラクやアフガニスタンとは違う」とし、「これは比較的文明化され、欧州に近い都市だ。このような事態は予想できなかったし、起きてほしくもなかった」と述べました。またイギリスBBCの番組では、ウクライナの元次長検事が、ロシアとウクライナの紛争が自分の感情を揺さぶる理由として、「金髪の子を殺している」と発言しました。

メディアの世界では、微妙な言い回しによって特定の人種グループがさらに疎外される例が、数えきれないほどあります。視聴者はメディアの表現により、戦争や紛争が、先住民や黒人の暮らす「第三世界」や「開発途上国」のみで起きるものであると信じ込まされています。ニュース報道にある先入観や偏見が、特定の人種グループに対する抑圧の一因となっています。どのようなニュースが報道する「価値のある」ものとされるかを見てみると、人種差別がどれほど蔓延しているかがわかります。ウクライナに住むアフリカ出身移民が国境を越えさせてもらえないなどというニュースはもっと取り上げられるべきですが、実際にはほとんど報道されず、話題も集めません。

エチオピアでは、2020年11月から政府軍とティグレ州の武装勢力との間で紛争が続き、数万人が犠牲になり、30万人以上が飢饉に見舞われていますが、報道されることは少ない状況です。西アフリカのカメルーンでは2016年から、北西部の英語圏での独立運動が紛争に発展し、100万人以上が避難民化しています。だが世界で注目を集めるのは、白人に影響する危機のみのようなようです。

アメリカ・コネティカット州ブリッジポートでは昨年12月、ローレン・スミスフィールドさん（当時23歳）が、出会い系アプリで知り合った男性を自宅アパートに迎え入れた翌朝、遺体で発見されました。彼女の死は家族に通告されませんでした。この事件はラッパーのカーディ・Bがソーシャルメディアに投稿して初めて、全米の注目を集めました。

黒人の女性や少女が行方不明になったり遺体で見つかったりしても、報道されることは非常に少ないのが現実です。白人女性が凶悪犯罪の被害者となった事件を積極的に報道す

る一方で、黒人や先住民、アジア系といった非白人が被害者の事件を無視する傾向は「行方不明の白人女性シンドローム」と呼ばれています。

アメリカの黒人運動指導者であった、マルコムXはかつて、「メディアは世界で最も力のある存在だ。無実の人を有罪にし、罪を犯した者を無罪にする。それがメディアの力だ。メディアが大衆の心を操っているのだ」と述べました。

何がどのように報道されるかには、先入観や偏見が存在します。メディアは、人々の認識を形成する上で直接的な影響力を持っているため、私たちは、こうした不公正さは断固として非難していかなければならないと感じています。

最後に、私たち労働組合が「たたかう」とする場合は闘争の「闘う」を使います。決して戦争の「戦う」は使いません。戦争の「戦う」は、戦争や試合など相手と勝ち負けを競う場合に使われます。「大軍と戦う」などという使い方をします。闘争の「闘う」は、「差別や困難など目に見えないものに立ち向かい乗り越えようとする」という意味で使われます。「不正と闘う」などという使い方をします。

本日のメーデーを契機に、労働組合として組合員を含めてすべての労働者の地位向上に取り組み、闘っていくことを全体で確認しようではありませんか。

第93回メーデー万歳

2022年5月1日